

○いちにちの悔い消すように水を打つ

弘

でくの棒なのに朝顔よりかかる
打ち水に庭は水玉模様です
夜店から帰り混みあう金魚鉢

○啖たんかばい売すんで夜店に換わる頃

梅雨深しATMに小学生

丞子

打ち水や夕陽の燃へし土佐の海
打ち水をカフェのレシピに加へるか
雨止んで蟬鳴き始め回す傘

看板の浮びて匂う夜店かな
打水や子の宿題の植木鉢
日が高い広場の子等の夏帽子

美和

○涙はなた垂れも餓鬼大将も夜店の灯
お小遣ひすつからかんとなる夜店
水を打つ舗装路じゅわつと音のして

掛声のごみ収集車炎天下
歓声や初朝顔に一年生
長梅雨や側溝の苔たじろがず

郁子

○打水や息子が彼女連れてくる
○百舌が鳴く低いところの選挙戦
○贖罪の途中で覗いてみる夜店

打水やしぼし広がる日の匂ひ
夜店の灯絵金描ける「台提灯だいちょうちん絵」
日向水隠れて浴びし金かなだら

道彦

○雨あがる土曜夜市の灯取虫
打水やあたり一帯地のほてり
草取りやブヨ払う手にブヨの痕

○夜店へと兵児帯へこ二つ手をつなぎ

打ち水やおくれ毛束ね先斗町
ふんばれと汗のエースをただじつと

まり

駄菓子屋に自転車転ぶ夏休
早朝の打水一番八百屋かな
三十年夜店の金魚は池で鯉

○幼児に夢の明かりの夜店なり
○打水の手伝いの子の濡れにけり
○石錠の鎖のほひ梅雨明けぬ

佐和子

黙黙と盥を磨く終戦日
門前の夜店を畳む寅次郎
白シャツの膨らむ朝の高校生

文子

○打水に青筋揚羽現れる
○水打てば防犯灯の点るなり
遠き日の夜店のひよこピンク色

酔花



えり

行水の姉弟の声に雲遊ぶ
夜店の灯一つとなれり雨煙る
捨鉢のハイビスカスや赤く燃ゆ

夕子

○ヘルパーの介護実習髪洗う
野外プール底にむかでとマーメイド
打水す最上階のアプローチ

万貴

○アセチレンランプの夜店飴細工
○廃品にリカちゃんセット遠花火
独り居の和室八畳三尺寝

保明

夜店の灯ジーンジーンと弟よ
水打って昭和の路地に帰りけり
梅雨最中地軸の軋む音がする

紀代

○水打って又水打って律義者
我が毒を信じ蝮のたじろがず
急がざることが哲学かたつむり

美貴

味元 昭次 作品

美貴

悪妻と聞きしが水を打ちにけり
喪の家の水打ちたれば女消ゆ
団塊世代夜店に売れ残る金魚

